

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 井堀 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59

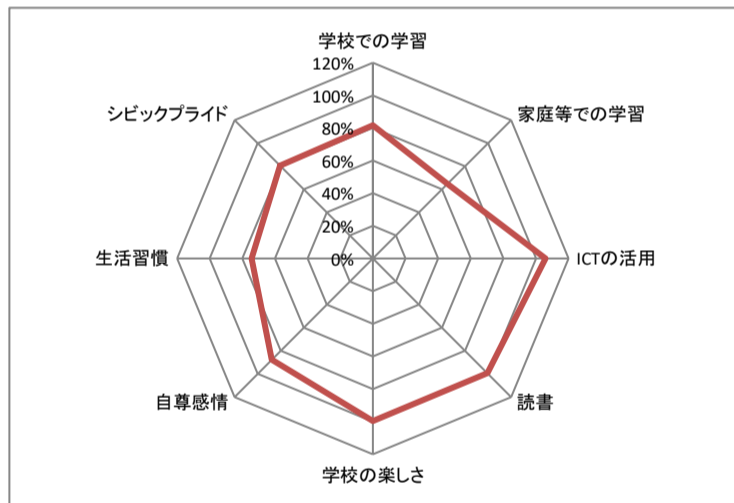
全国	9.4	67	10.0	63
----	-----	----	------	----

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識及び技能」については、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が全国平均を下回った。「思考力、判断力、表現力等」については、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の正答率が全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を下回った。	

算数	全体的な傾向や特徴など	「図形」「変化と関係」の領域の正答率は全国平均と同程度で、「数と計算」の領域の正答率は全国平均を下回った。観点別では、「知識・技能」の問題の正答率は全国平均と同程度で、「思考・判断・表現」の問題の正答率は全国平均を下回った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由や言葉を数を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回った。	
	努力が必要な問題	()を用いた式や加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を下回った。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
<p>「ICT機器をどの程度使用しているか」との問いに対して、100%の児童が「週1回以上」と回答している全国平均を上回っている。プレゼンテーションソフトやドリルアプリ等の使用を進めていることが、ICTの活用に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>「友達関係に満足しているか」との問いに対して約97%の児童が肯定的に回答している。学級活動や縦割り活動等を充実させていることが、学校の楽しさに影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>「学校が休みの日にどれくらいの時間勉強しているか」との問いに対して「1時間以上」と答えた児童が36%である。家庭学習の大切さを十分に啓発できていないことが、家庭での学習時間に影響を与えている可能性があるため、今後は、家庭学習の大切さをこれまで以上に啓発していく必要がある。</p>	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科については、「書くこと」の正答率が全国平均を大きく下回った。今後は「書く活動」に重点的に取り組む必要がある。算数科については、「数と計算」の領域の正答率が全国平均を大きく下回った。今後は数の概念の形成や数の表し方や計算の習得に重点的に取り組む必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

平日・休日ともに家庭での学習時間が全国平均を下回った。今後は、家庭学習の大切さをこれまで以上に啓発していく必要がある。朝食を毎朝食べている児童や規則正しい起床・就寝をしている児童の割合が全国平均を下回った。今後は、生活習慣の大切さをこれまで以上に啓発していく必要がある。